

海外生活 エッセー

ソウル事務所

韓国カフェ文化体験記

(一財)自治体国際化協会ソウル事務所 所長補佐 奥野 秀樹 (愛媛県派遣)

→ 至る所、カフェがある韓国

「ここ数年間の韓国での変化は何ですか?」と尋ねると、街中にカフェが増えたことだと多くの方が答えます。韓国国税庁の統計からカフェ店舗数の推移を分析すると、全国で2万5,151店(2014年9月)から5万209店(2018年9月)へと、ここ4年間で2倍近く増加していることが分かります^(注)。今回はそんな飛ぶ鳥を落とす勢いの韓国カフェ文化についてご紹介します。

→ 韓国カフェ文化の歴史

韓国でのカフェ文化隆盛の契機は2000年前後、外資系カフェチェーン店の進出だと言われています。日本でも馴染みのスターバックスが1999年、LA発祥のThe Coffee Bean&Tea Leafが2001年に第1号店を出店しています。その後国内ブランドのカフェチェーン店が続々とオープンしますが、その背景には、1997年のIMF経済危機後に若年層の就職難の受け皿としてカフェ経営が果たした役割や、生活スタイルの変化に伴うコーヒー消費量の著しい増加があることにも目を留めておきたいです。カフェ文化はすでに韓国の飲食文化に深く根付いており、ランチタイムには手にテイクアウトの紙コップを持っている勤め人の姿を多く見かけます。

→ カフェとトレンド

「インスタ映え」は日本でも流行語になりましたが、韓国カフェのトレンドも、SNS上で「좋아요(チョアヨ) = いいね」を集められるショップが人気です。ソウル市内にある聖水洞(ソンスドン)はそんなホットスポットの一つです。この地域は元々町工場などが集まるエリアでしたが、近年は工場をリノベーションしたギャラリーやカフェが話題になっています。今回はその内の一つ

「대림창고 갤러리 컬럼 大林倉庫ギャラリーコラム」を現地体験してきたので、簡単にご紹介します。

ここは倉庫を改造したアートカフェで、フォトジェニックな雰囲気が若者を中心に人気を集めています。室内は倉庫の高い天井を生かした開放感に溢れ、さまざまなアート作品がひしめき合い、ドリンク片手にスマートフォンで自撮りをする方が多くいました。韓国のカフェはメニューの豊富さが特徴で、「コグマ(さつまいも) ラテ」をはじめとするスイーツ系ドリンクも人気です。注文を待っていると、隣のテーブルから職場の同僚らしい男女の賑やかな声が。韓国の特徴的文化「모임(モイム) = 集まり」の最中でした。カフェはこうした親睦の場としても活用されているようです。1時間ほど滞在し、居心地のよい時間を過ごすことができました。



高い天井が特徴的な店内の様子

→ カフェと生活

休日をよく過ごす近所のカフェ。目の前はソウル市民の散歩道「キョンイ(京義)線森の道」で、家族連れからサイクリストまで色々な人が訪れ、カフェに入って休息をとる姿が見られます。カフェはオフィス街、ショッピングモールや住宅街と、さまざまな場所・機能で私たちの生活の一部になっています。その国、都市の生活文化を肌身で感じたいときには、カフェに立ち寄って周囲を観察することも有効な手段の一つかもしれません。これからもカフェは私の韓国生活の中で中心的な場所であり続けると思います。

(注) 韓国国税統計資料「国税統計で見る100生活業種の現況」(2017年11月29日付報道参考資料)および「事業者現況(100業種)」(2018年9月分)